



第2回 史跡取掛西貝塚保存活用計画 策定委員会

事務局：船橋市教育委員会文化課
令和4年6月17日

本日の議題

- 1 策定スケジュールの変更について
- 2 保存活用計画の構成（案）について
- 3 第1回 策定委員会での意見への対応状況
- 4 関連する遺跡・文化財について
- 5 取掛西貝塚の成果と課題
- 6 保存管理・整備・活用の現状と課題
- 7 その他

1 策定スケジュールの変更について①



R4年3月 第1回	▶委員長・副委員長互選 ▶史跡取掛西貝塚の概要と計画策定について ▶今後の予定について
R4年6月 第2回	▶現地視察 ▶史跡取掛西貝塚保存活用計画の構成（案）について ▶現状と課題について
R4年9月 第3回	史跡の現状と課題・将来像と保存、活用、整備 ▶ 史跡の本質的価値、構成要素の整理 ▶現状と課題の整理、将来像の検討 ▶史跡の保存管理及び活用の大綱・基本方針について
R4年12月 第4回	保存と活用の方向性について ▶保存の方向性と方法、追加指定と公有化の方針 ▶活用の方向性と方法
R5年3月 第5回	整備の方向性と運営・体制の整備と経過観察 ▶整備の基本的考え方の整理 ▶運営と体制整備の方向性と計画、施策と経過観察
R5年6月 第6回	保存活用計画の総括 ▶保存活用計画素案の最終確認

1 策定スケジュールの変更について②



R5年6月 第6回	保存活用計画の総括 ▶保存活用計画素案の最終確認
R5年8月 R5年9月 R5年10～11月	教育委員会会議報告 議会報告 パブリックコメント
R5年12月 第7回	パブリックコメント結果 ▶修正の確認
R5年12月 R6年3月 R6年4月1日	教育委員会会議 議決 史跡取掛西貝塚保存活用計画書 刊行 保存活用計画 施行

2 保存活用計画の構成案について

【史跡取掛西貝塚保存活用計画 目次（案）】

- 第1章 計画策定の沿革・目的
- 第2章 史跡取掛西貝塚の概要
- 第3章 取掛西貝塚の本質的価値
- 第4章 現状・課題
- 第5章 大綱・基本方針
- 第6章 保存（保存管理）
- 第7章 活用
- 第8章 整備
- 第9章 運営・体制の整備
- 第10章 施策の実施計画の策定・整備
- 第11章 経過観察

3 第1回策定委員会での意見に対する対応状況

【参考】第1回 史跡取掛西貝塚保存活用計画策定委員会での指摘・意見（議事録抜粋）

- 1 過去の広報ふなばしでの掲載記録と国史跡指定答申時の紙面
- 2 考古学的見地、活用的見地、整備的見地の各現状と課題
- 3 縄文時代早期または縄文時代全般の遺跡・文化財の紹介と活用の方向性
- 4 整備の条件となってくる区域や他部署の計画の確認
- 5 学校教員へのアンケートの実施
- 6 地権者・遺跡周辺住民へのアンケートの実施
- 7 アンケート結果の地域性の分析・検討
- 8 取掛西貝塚の解明されている点と未解明な点についてわかりやすく整理

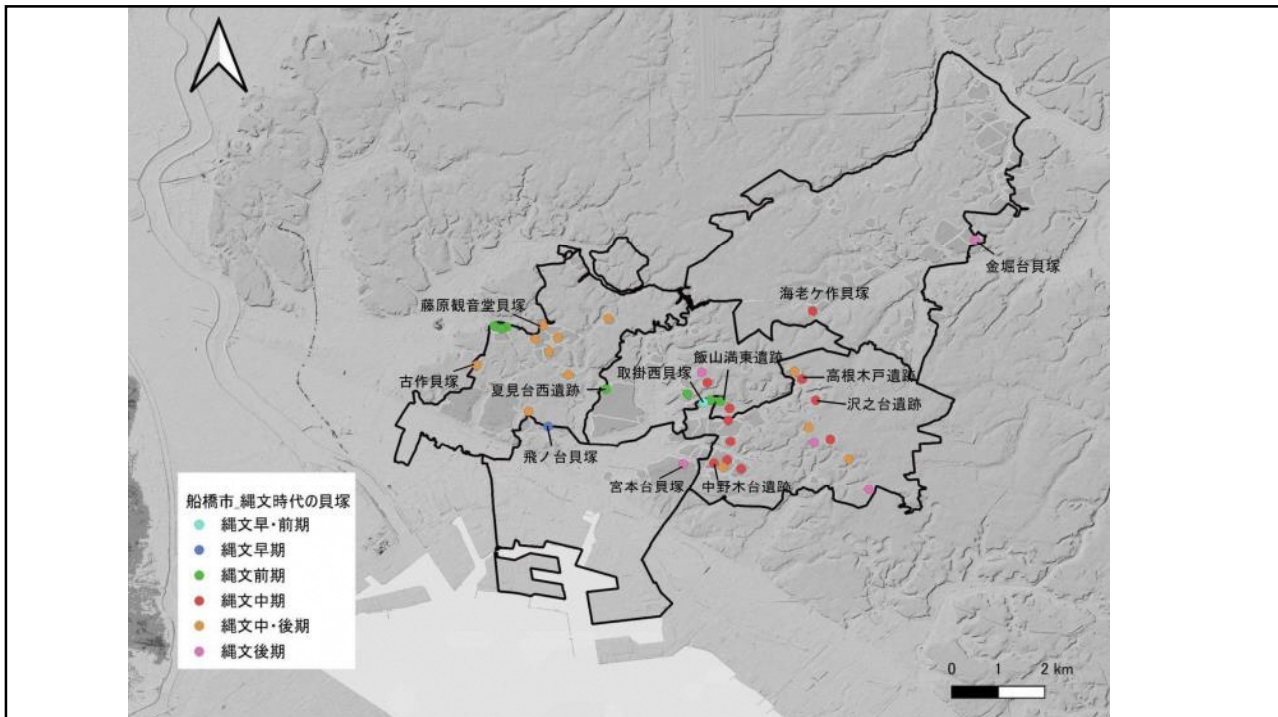
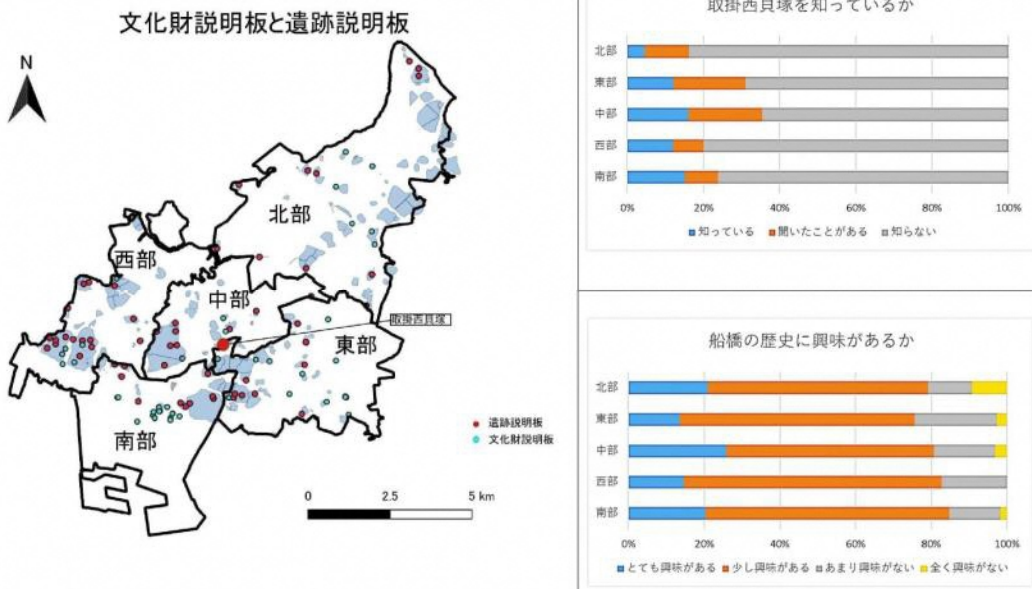
3 - 1 アンケートについて

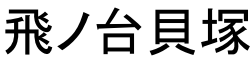
- 地権者の方や遺跡周辺にお住まいの方へのアンケート
- 学校教員へのアンケート
- →第4回 策定委員会（令和4年12月開催予定）で報告できるように計画中

3 - 2 市政モニターアンケートの実施について

- 第3回 策定委員会（令和4年9月開催予定）で結果を報告予定
- 参加したい活用事業などを中心に意識調査を行う予定
- 縄文時代や貝塚についてのイメージ調査は、別途、実施について協議中

3-3 アンケート結果の地域別集計





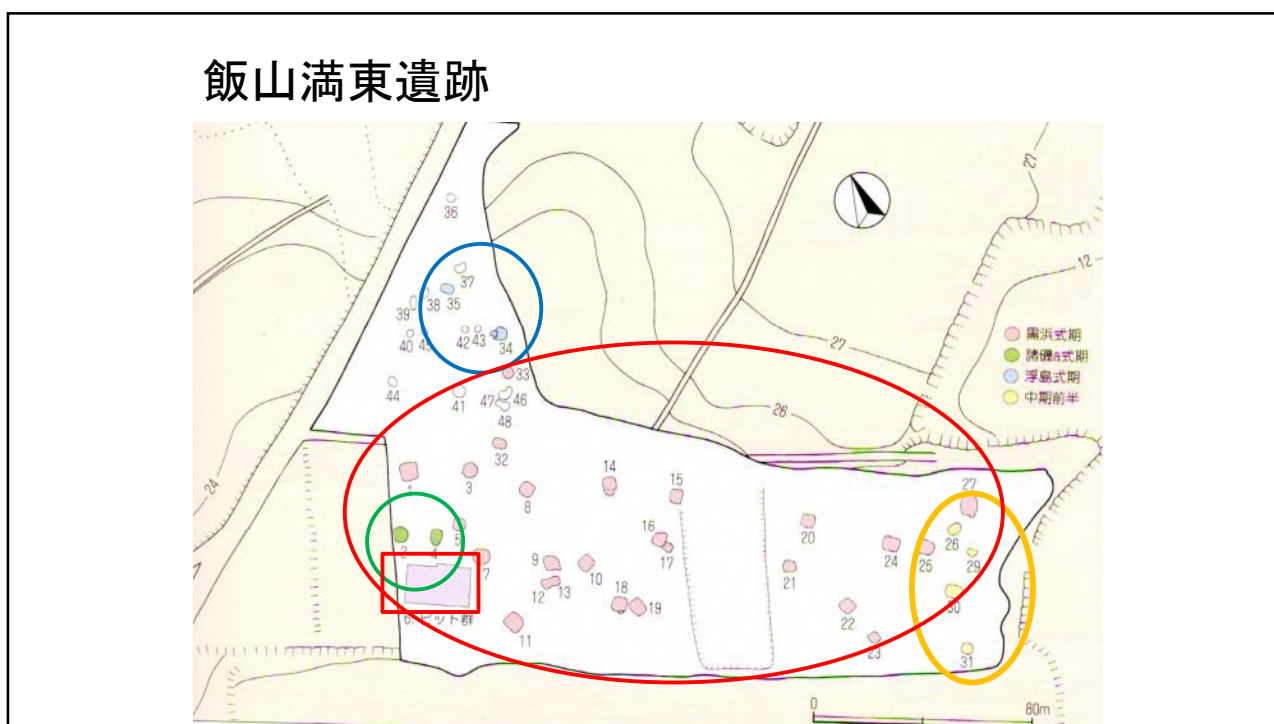
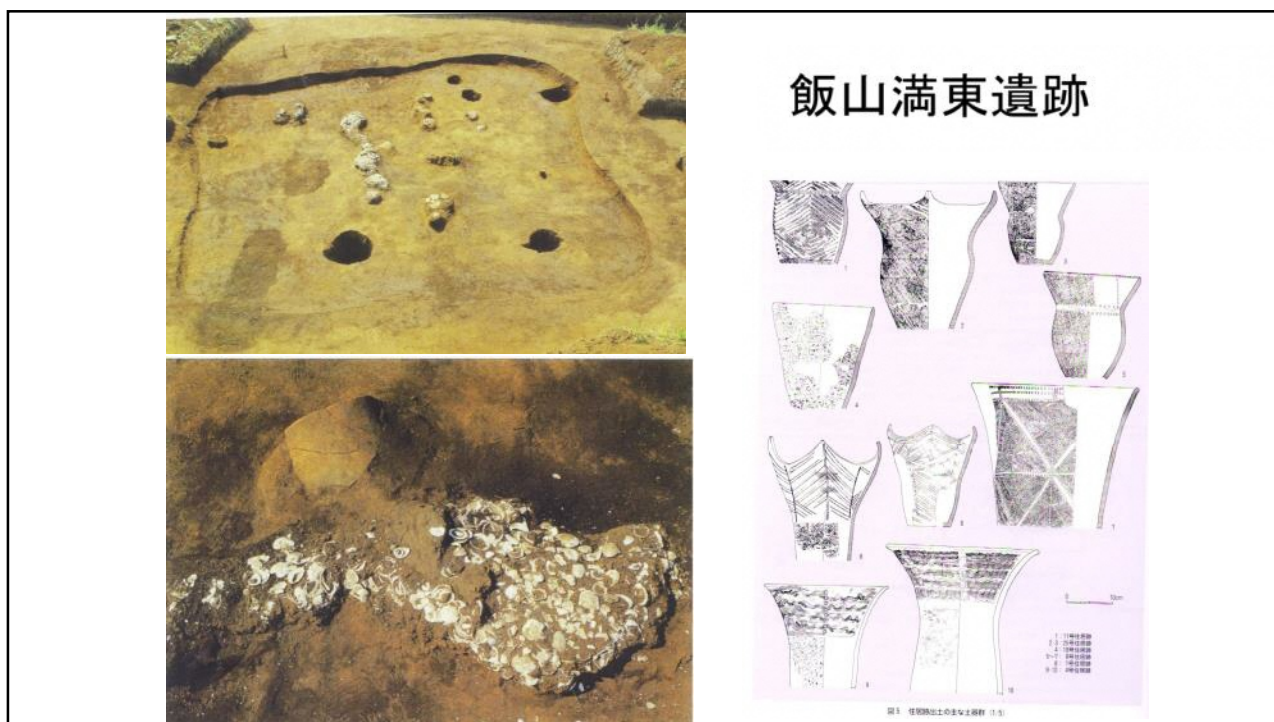
-
- An aerial photograph of a miniature golf course. The course is enclosed by a low brick wall. It features a large, irregularly shaped pond on the left side, a central green area with a sand trap, and several smaller green areas and sand traps. The course is surrounded by trees and a paved path.



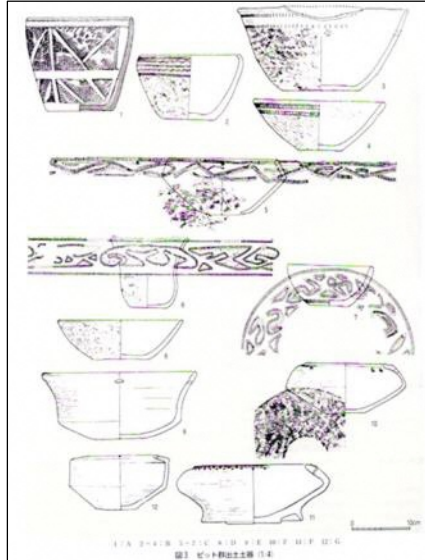
飛ノ台貝塚の動物遺体

- 貝類: **ハイガイ** 主体・マガキ・ハマグリ・シオフキなど(38種)
- 魚類: スズキ・クロダイ・マダイ・アジ・ヒラメなど
- 動物: キジ・ノウサギ・イノシシ・ニホンジカ・イルカ・ウミガメ類など
- コウイカの甲羅・カニ類など

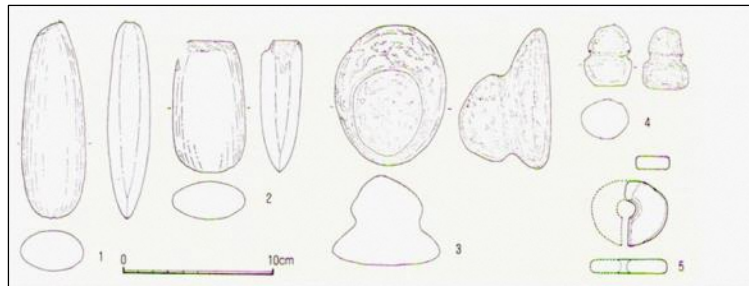
- この時期は貝層中から魚骨・獣骨が出土することは少ない→例外的に資料が**豊富**
- 貝刃(ハマグリ)・貝輪
→飛ノ台貝塚=**積極的に海産資源を利用した集落**
- 石皿など重量のある大型石器の存在
- 黒曜石産地＝神津島・信州・高原山・箱根
→多くの地域とのネットワーク形成



ピット群出土土器

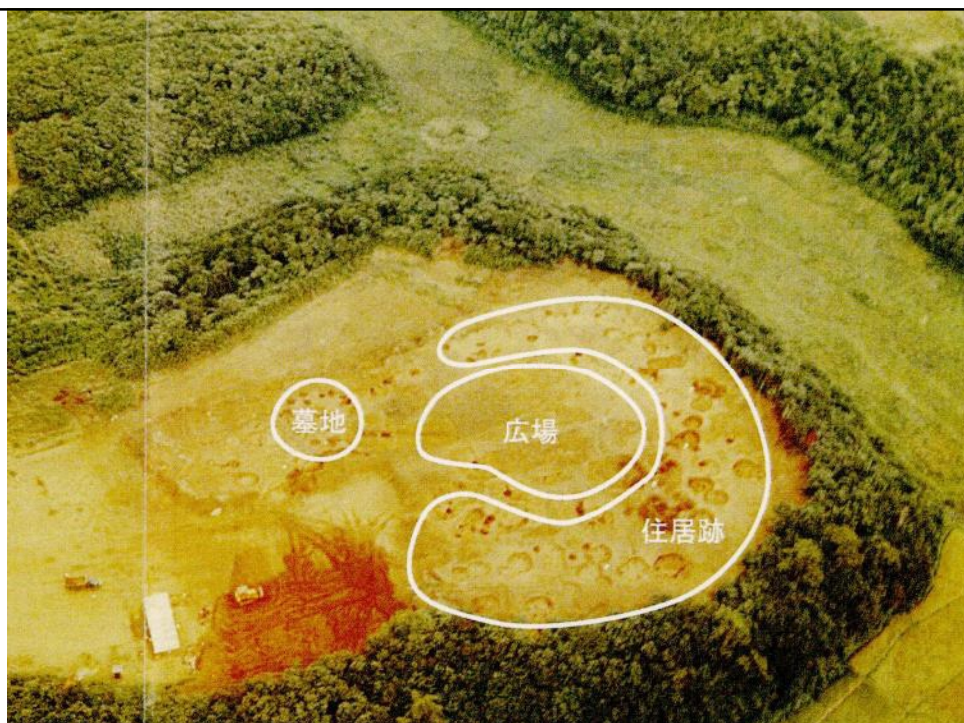


住居跡出土土器



玉類

高根木戸遺跡





1 貝類埋積状態



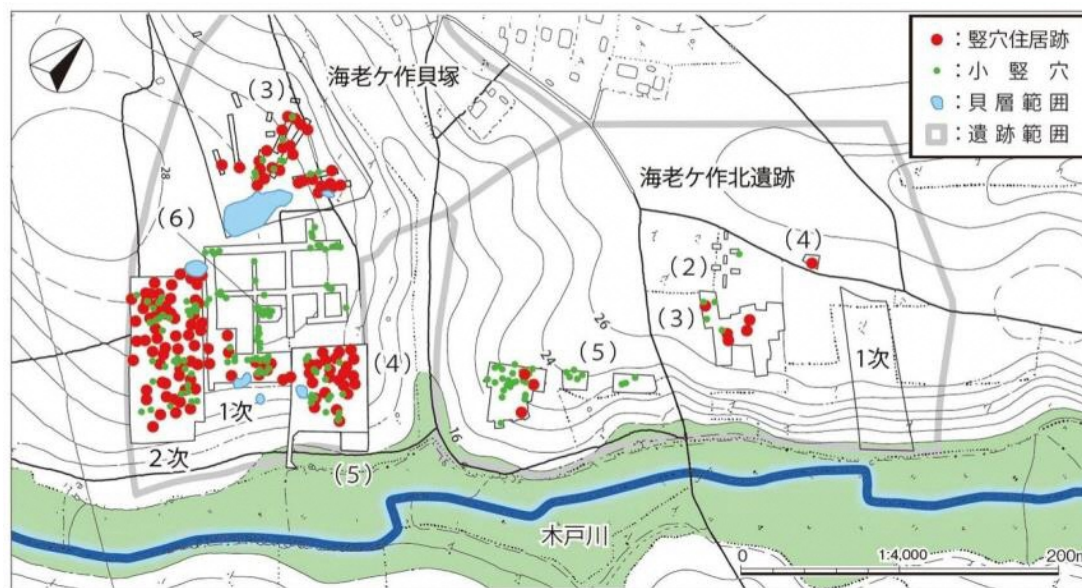
2 骨類出土状態



高根木戸遺跡



海老ヶ作貝塚



海老ヶ作貝塚の集落の広がり。海老ヶ作貝塚の東側には小さな谷が入っています。



昭和 40 年ごろの上空からの写真。
中央が 2 次調査の範囲。右下に白っぽく貝の分布が見えます。



貝層の調査状況。
地面を掘り進めていくと厚い貝の堆積がありました。

古作貝塚



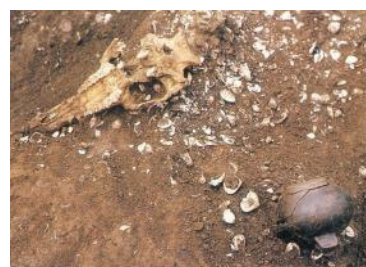
貝輪入り壺形土器（川村寿撮影）

朱塗りの注口土器

宮本台貝塚



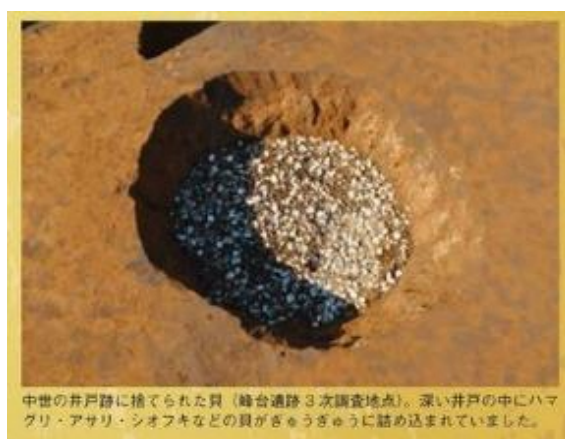
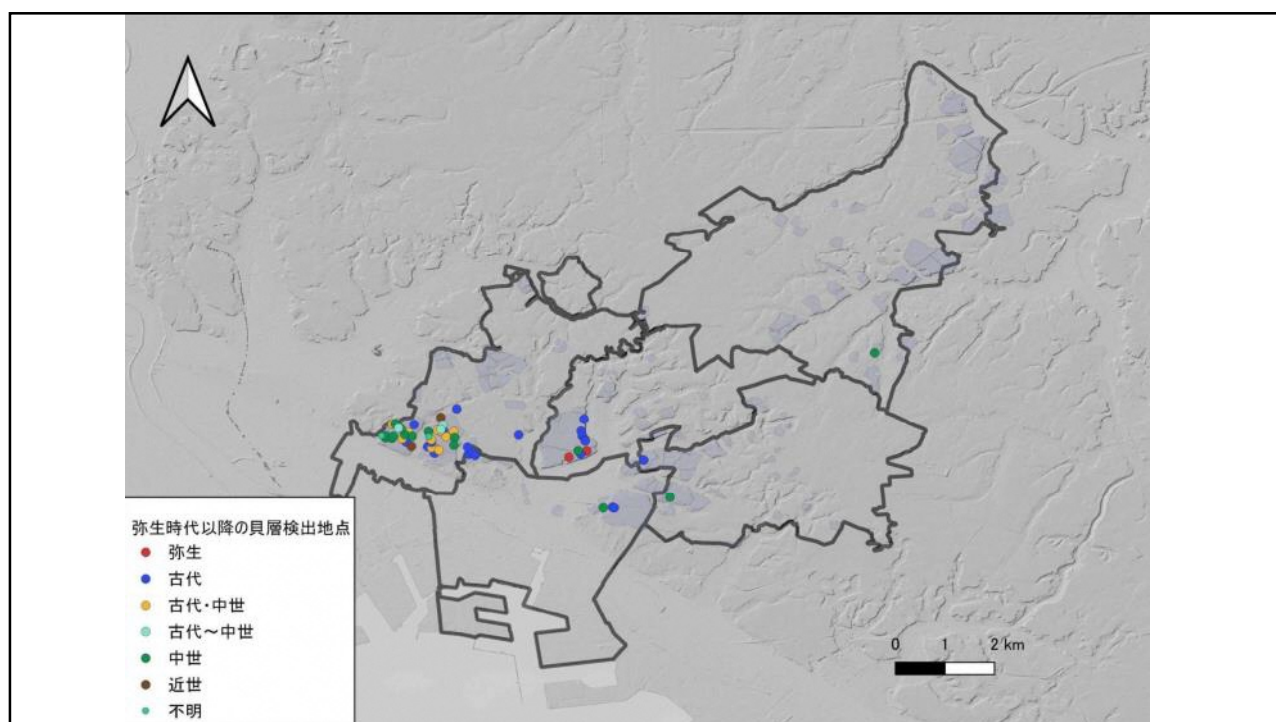
1 人骨群配列状態



貝塚中層部（イメシ）出土土器

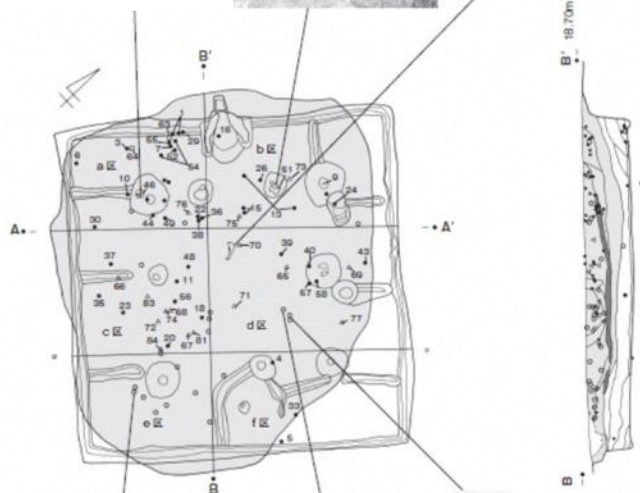
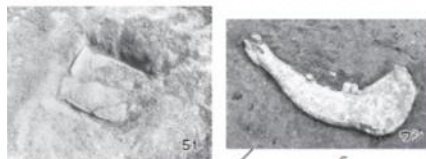


型八住貝塚

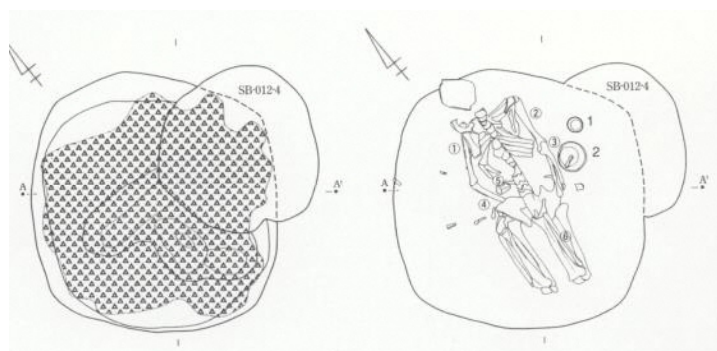


住居内貝層

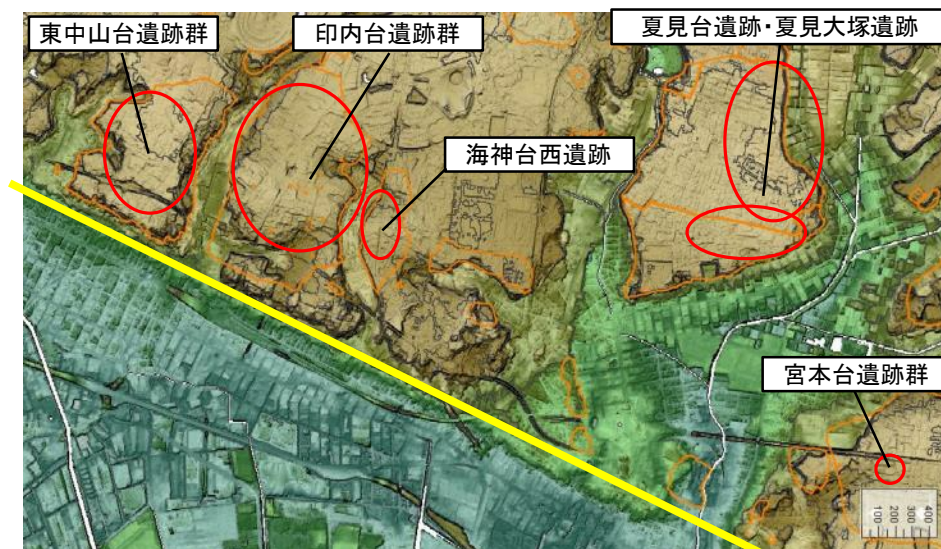
[印内台遺跡群(21)]



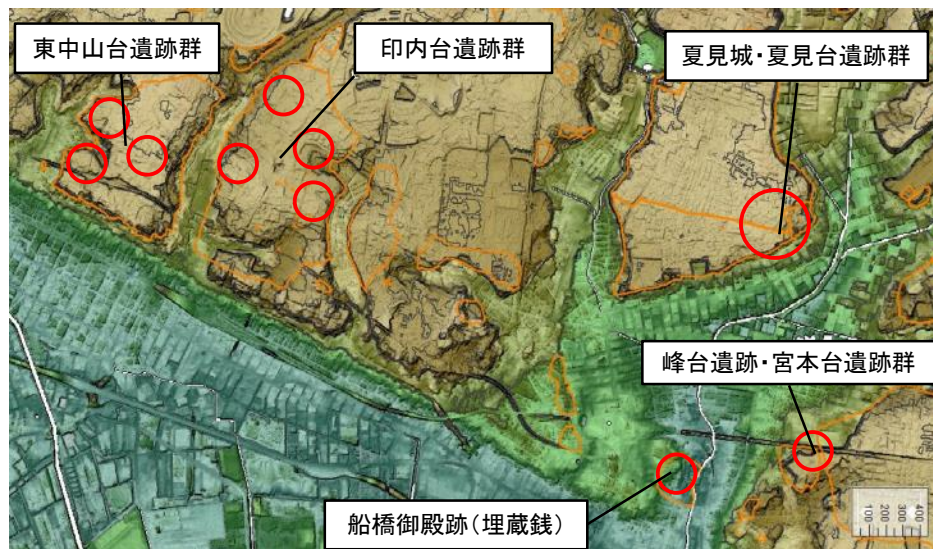
中世土坑墓[印内台遺跡群(43)]



IV(1)奈良・平安時代



中世



- 船橋御殿跡＝埋蔵銭が出土→富の集積
- 西福寺石造五輪塔→律宗系の高僧の墓
＝船橋湊周辺に拠点となる寺が存在
→宗教的・経済的活動を担っていた



宮本西福寺の石造五輪塔（右）と
宝篋印塔（左）（県指定文化財）
五輪塔は高さ 2.92 mと大型。律宗の高僧
の墓です。



この五輪塔は鎌倉極楽寺
の僧侶忍性さんの五輪塔
とも相似形で、りっぱな
ものだよ

船橋御殿跡

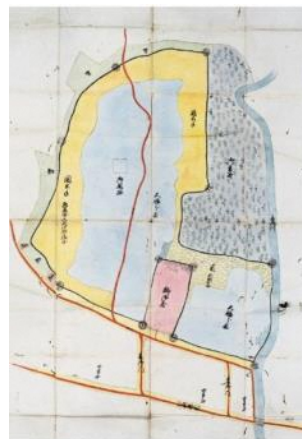


船橋御殿と御成街道（江戸時代のように）

船橋御殿跡

- 御成街道の要所＝海老川河口に位置する
- 防御用の土塁・堀→軍事的拠点でもあった
- 徳川将軍の鷹狩りや地方巡検の宿泊・休憩用に江戸時代初めにつくられた
- 徳川家康・秀忠が宿泊

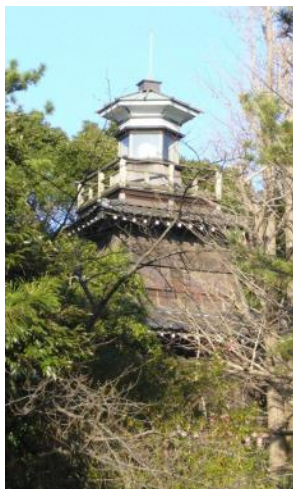
船橋御殿跡



船橋御殿跡地図（部分）宝永7年（1707）船橋市西図書館蔵

活用のイメージ

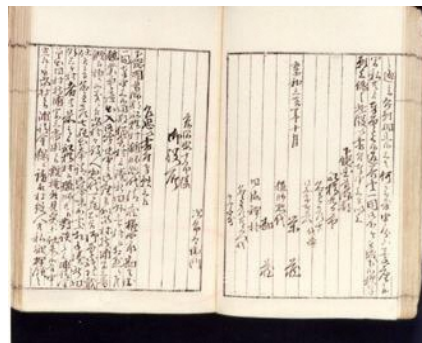




灯明台



船橋大神宮の神楽（水神祭）



船橋浦漁業関係古文書類



大仏追善供養

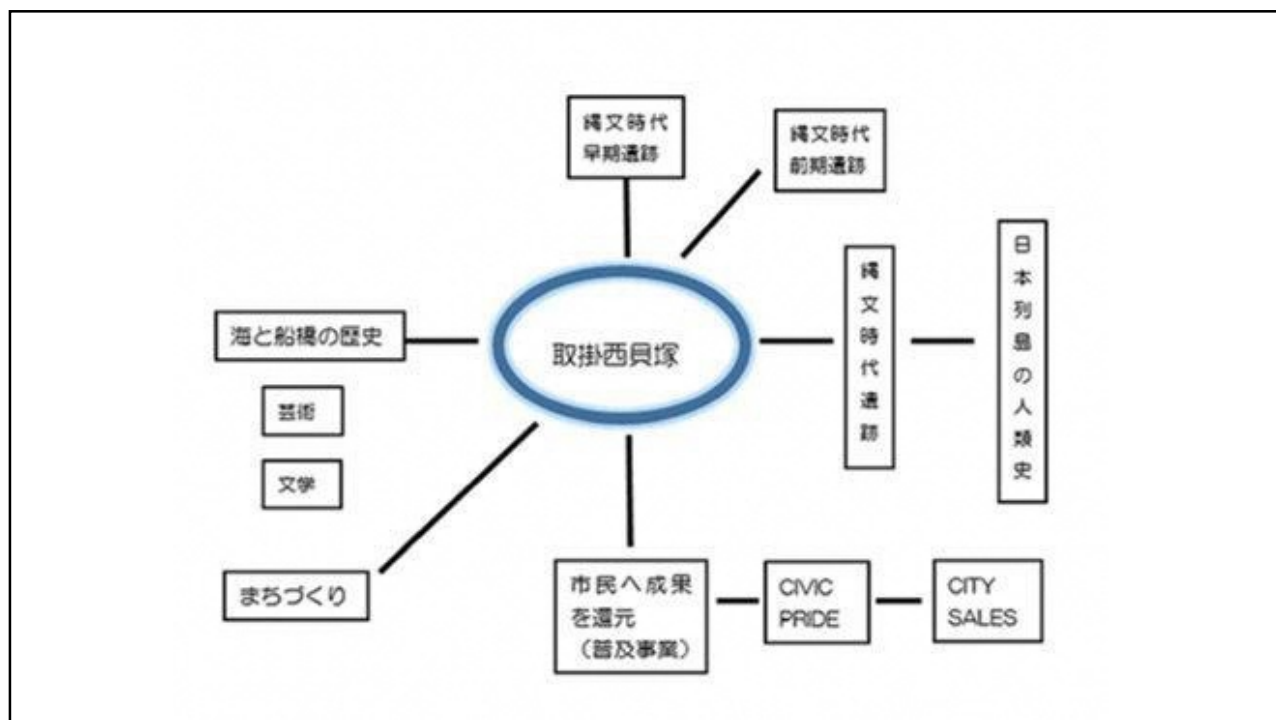


三田浜塩田発祥の地

荷船松原双鳥鏡(俵藤太鏡)

- 印内台遺跡群(13): 平成6年調査
- 井戸が埋没した凹みに流れ込んだ貝層から出土
＝湖沼投入鏡のような祭祀？
- 製作年代は14世紀前半
(鎌倉時代末期)
- 懸垂孔を持つ＝社寺奉納鏡
- 俵藤太(藤原秀郷)物語
- 龍宮(海神)信仰
- 不老長寿





史跡取掛西貝塚の概要①

取掛西貝塚（とりかけにしがいづか）

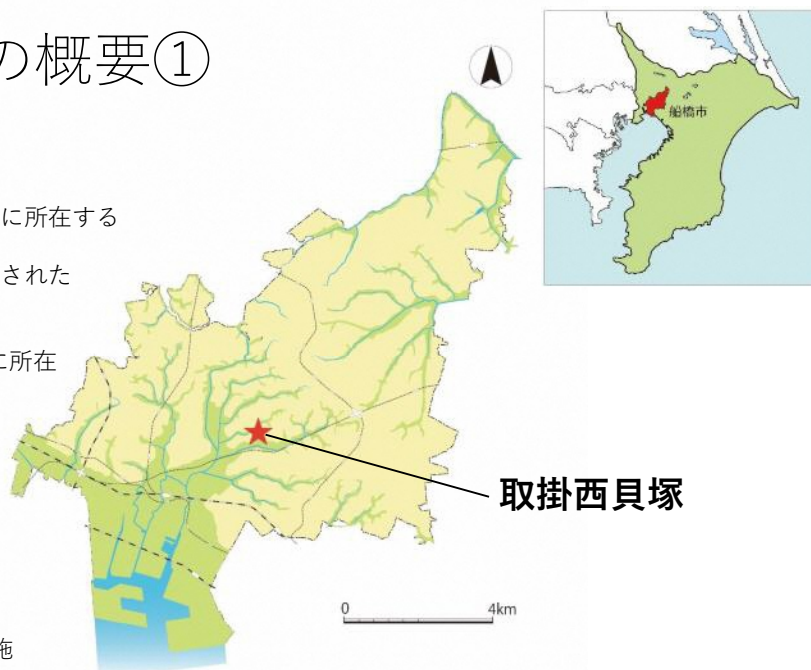
東京湾奥部の千葉県船橋市、
市内のほぼ中央、飯山満町・米ヶ崎町に所在する

東京湾に流れ込む海老川の支流に開析された
舌状台地の上に立地する

現在の東京湾岸から約4.5 kmの位置に所在

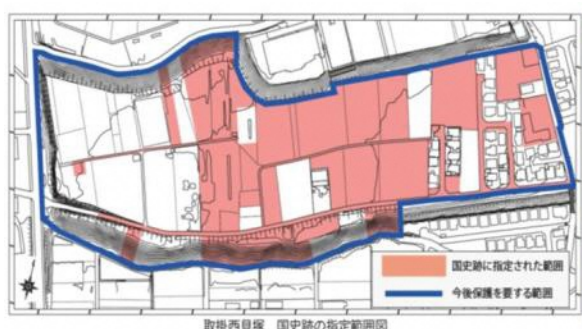
遺跡の概要

- 縄文時代早期前葉（約1万年前）の
貝塚を含む集落跡を主体とする遺跡
ほかに縄文前期前半（貝塚含む）、
弥生中期後半の集落跡など検出
- これまでの発掘調査…
開発等に伴う発掘調査5回、
台地上での分布調査1回、
遺跡保存目的の確認調査3回を実施



取掛西貝塚

史跡取掛西貝塚の概要②



史跡の名称：取掛西貝塚

指定告示日：令和3年10月11日

史跡指定範囲の面積：39,032.42㎡（約76,000㎡のうち約53%）

史跡の所在地：千葉県船橋市飯山満町一丁目1337番2外132筆等

史跡の管理団体：船橋市（令和4年2月3日指定告示）

立地：標高約23～25mの舌状台地上（周辺低地との比高差：約16m）

現存する台地の規模：南北0.65km、東西1.8km、面積約76,000㎡

史跡取掛西貝塚の概要③



【東京湾東岸部最古の貝塚を伴う集落跡】

- 東京湾奥部で初めて確認された出現期の貝塚
- 日本列島でも最も貝塚が多く密集する東京湾東岸部のなかでも最古段階の貝塚で、地域における貝塚開始期の状況を知る上で重要
- 全国的にも数少ない縄文早期前葉の貝塚のなかでも、集落と貝塚を同時に検出しており、両者の関係が明らかな事例として特に貴重な遺跡

史跡取掛西貝塚の概要④



【縄文時代早期前葉では関東最大規模の集落跡】

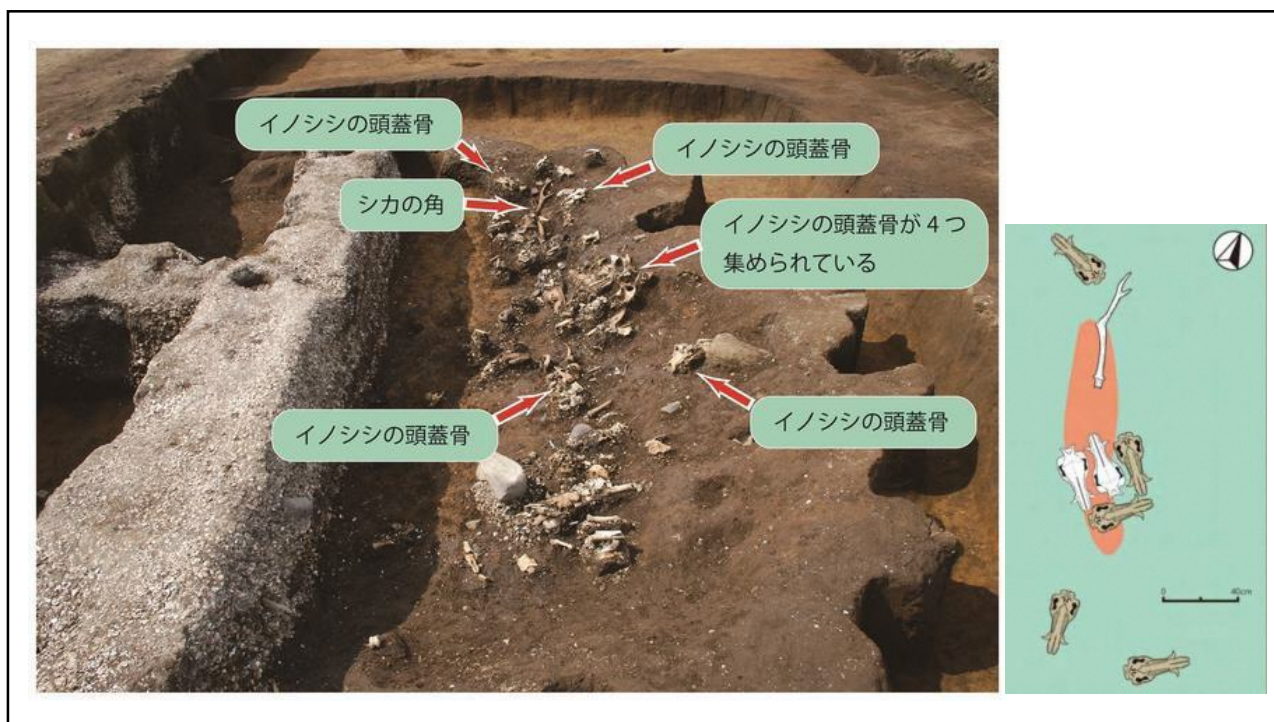
- 東西約320m・南北約100mの範囲で竪穴建物が分布。部分的な調査範囲でも58棟の竪穴建物が確認された
- 縄文早期前葉の集落としては関東最大級の規模
- 出土土器からみて集落の帰属時期が3時期に大別され、時期が下るごとに集落の分布が西から東へ遷移することが確認された

史跡取掛西貝塚の概要④

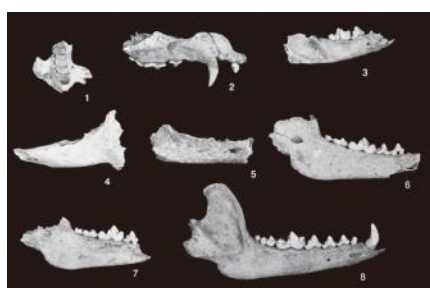


【東京湾の形成史と環境変化への縄文人の適応】

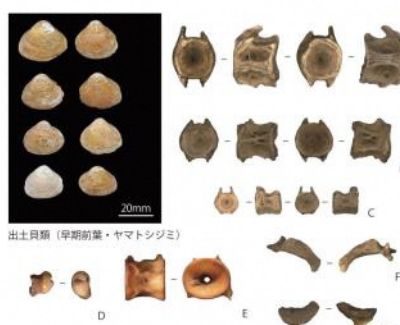
- 東京湾が形成されていく縄文海進の開始期（約1万年前）と、縄文海進最盛期（約6千年前）という、環境が大きく異なる2つの時期に、貝塚を伴う集落が同じ場所にある
- 2つの時期を比較すると、動物資源の利用や廃棄について差異があり、縄文人の行動に変化があったものとみられる
- 今後の分析・研究の深化により、環境変化に対する縄文人の適応を明らかにしていくことができると考えられる



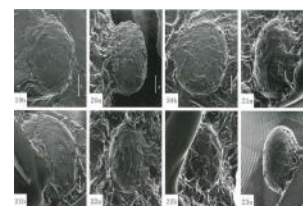
史跡取掛西貝塚の概要⑤



出土した動物骨の一部
(イノシシ・シカ・ウサギなど)



出土した貝殻・魚骨の一部
(スズキ属・ニシン科・コイ科など)



土器に残された植物の種実圧痕



出土した炭化種実の一部
(ダイズ属・ミズキなど)

【縄文時代早期前葉の動植物利用】

- 貝塚や当時の土壌から出土した動植物遺存体や、土器に残された種実圧痕の分析により、
- 当時の食料や生業活動、周辺環境についても推測が可能
- 縄文海進開始期の関東平野湾奥部の汽水域で、動植物利用の実態が初めて明らかになった

史跡取掛西貝塚の概要⑥



ツノガイ標本（参考）



出土したツノガイ類製の装飾品
（ビーズ状のもの）



出土したツノガイ類製の装飾品
（管玉状のもの）

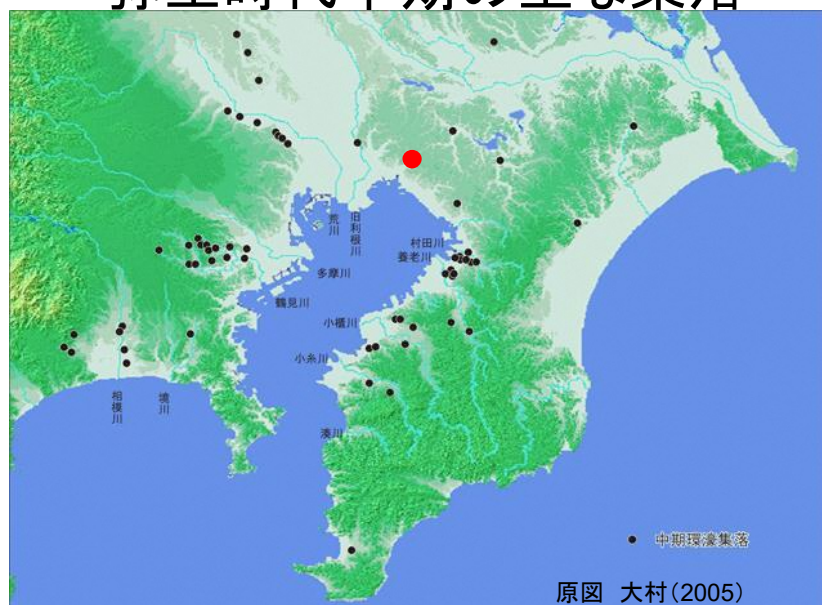
【大量のツノガイ類製装飾品】

- ツノガイ類（化石）を素材とする貝製品（装飾品）が2,000点以上出土
- 一つの遺跡で出土した量では国内最多。
- 素材、破損品、未成品（未研磨品）を含むことから、生産・流通に関わる遺跡の可能性を示唆
- ツノガイ類製品の製作や流通を考えるうえで重要な遺跡
- ほかにタカラガイ・サメ歯などを素材とする装飾品も出土

弥生時代中期（約2100年前） 竪穴住居跡・土坑（穴）



弥生時代中期の主な集落



6 保存管理・整備・活用の現状と課題

(1) 保存管理

- ・遺跡の約 47%が未指定→所有者の理解・協力により史跡指定地の拡大（史跡の追加指定）
- ・現状変更取扱いについて周知・徹底→保存活用計画で示す
- ・営農地：栽培品種の変更による深耕化、農業施設の更新など
- ・市民の居住空間・生活環境と史跡の調和・共存
- ・休耕地の増加傾向とその管理
- ・不法投棄等による景観・環境の悪化
- ・雑木の繁茂→電線にかかる 背の高いトラック荷台の接触
- ・遺跡及び周囲斜面地における崩落防止
- ・道路切通部分の土留め鋼板の老朽化・大雨時の崩落対策
- ・点在する公有地の環境維持（雑草管理）
- ・公有地化
- ・下水道整備への対応
- ・県道船橋我孫子線の拡幅取扱い協議→県道整備による擁壁設置＝遺跡の保全につながる
- ・石造物の扱い

(2) 整備

- ・ 便益施設（駐車場・トイレ・休憩施設等）の設置
- ・ ガイダンス施設の設置
- ・ 史跡の本質的価値を示す設備や装置の設置をどうするか
- ・ 遺跡がでてくる面が浅いため、整備には盛土が必要→斜面の整備・部分整備の場合、中央の家付近の整備をどのようにするか
- ・ 肥溜めの処理
- ・ 斜面の保全
- ・ 史跡へのアクセスの円滑化（誘導サイン設置・駐車場など）

(3) 活用

- ・ 学校教育と連携した学習機会の充実
- ・ 市民（特に地域住民）が参加できる活用の検討
- ・ 整備がすぐにできない→現地で史跡の価値を知る工夫
- ・ 調査研究・普及事業の継続的实施
- ・ 関係機関との連携 * 史跡を持つ他自治体や博物館との連携